

アマダイ通信NO.45

(Tile fish network letter)

04年食欲の秋深く

知人・友人各位

秋も深まりましたが、皆様如何がお過ごしでしょうか？お盆休みにトルコ、9月にマレーシアで植樹と、二ヶ月続けて海外に出かけ、食欲の秋を先取り、朝からしっかり食べ過ぎたせいか、史上最高の74キロまで“成長”してしまいました。色艶も良く、周りから“お前本当に癌だったのか？”と言われる始末。が、病気は癌ではありません。肥満は万病の素、お互い、気をつけましょう。45号を送ります。

干場さん相談に乗って！・・・癌は運？

知人のSさんから、弟さんが癌で東大病院に入院しているので話を聞きたいと電話。東大病院にいるのなら医者でもない私が話すことなどないが、翌日、弟さんも交え赤門脇の学士会館でお昼を一緒にする。少し歳上の、元気そうに見える弟さんだが、腹部に痛みを覚えて医院へ行き癌だと言われ、築地の癌センターから更に東大病院へ回されたという。癌は脾臓から肝臓へ転移し、東大の外科の高名な先生からは手術しても仕方がないと言われているとのこと。見た目にはなんともなさそうなのに、これが癌というものか。

その数日前、東大三鷹クラブの講演会で一緒になった三楽病院の河野名誉院長が、干場君、元気だね！例外だよ、もう大丈夫だね！と言いながら、話してくれたことを思い出す。北朝鮮の拉致被害者の曽我ひとみさんね、肺がんだったんですよ。普通健康診断では消化器系の癌はみつかるが、肺がんまではわからないんだ。費用が高いので、CT(断層撮影)まではしないから。場合が場合だから彼女はCTを撮った。そうしたら肺に1センチくらいの癌が見つかったんだ。運だよ。1年早く帰国していたら癌が小さくてCTでもわからなかった、1年遅ければ手遅れだった、運だよ！

このところの人生では余り運に恵まれなかった。又もや、大腸の外皮1枚残すまでの深さで、リンパ節にまで転移しているステージbの、径5センチの大腸がんで、リンパ節9箇所切除を含め5時間の大手術をするという不運。三楽病院の阿川先生という名医に出会い、生検で癌細胞が発見された3箇所のリンパ節を含め、患部のがん細胞を全部取り除くことができたということか？術後1年半、丸々太って血色のいいを前に河野先輩が、例外だよ、もう大丈夫だね！と言ってくれるのは、ようやく幸運に恵まれたということか？だが目の前にいるのは東大病院で手術できないと言われ、退院を促されている癌患者だ。アドバイスできることなどあろうか？

癌で幸運？

癌に罹って人の話を聞いたり、本を読み、多少知識はついたが、同年時入学の東大病院のM大先生に診てもらっている人に、治療法のことなど話す勇氣はない。自分の治療のことと心境を話して参考にしてもらえない。直る見込みがないと思われる患者にその旨を告げるお医者さんの心境も如何許りかと思うが、アドバイスを求められる素人も辛い。

人はいずれ死ぬ。そのことを悩んでも仕方がないが、他の病気でなく癌だったことを幸運と思う。心筋梗塞や脳梗塞は発作で帰らぬ人となることも多いが、癌は宣告されても余命があり、死までのプロセスをコントロールできないにしても、ある程度自分で選択できる。



癌と徹底的に闘い、人生の残り時間を全てそのために使うこともできるし、いずれ避けがたい結末ならば、癌との闘いに使うエネルギーと時間は最小限にして、他の目的のために使うこともできる。ある程度の年齢になれば子供も大きくなり、社会に出て一人で生きて行く目途は立つ。収入のない伴れ合いと住宅ローンが残っていても、付帯の生命保険でローンはチャラになり、多少の保険金や退職金、年金で、残された者の生活もある程度カバーできる。家庭を作ったことの社会的責任も果たしたことになる。立派な人生である。

勿論、物事には全て二面性があり、心筋梗塞や脳梗塞の発作で亡くなった方が苦しみが少ないともいえる。要はものの見方、心構えである。余命半年と言われた時に、半年しかないと考えるか、半年もあると考えるか。半年しかないと考えると身構えるが、半年もあると考えると多少、余裕ができる。勿論その先も、半年しかないから残りの時間を充実してと考えることもできれば、半年もあるからと無為に過ごす選択もある。できれば物事の積極面を見てプラス思考で生きたい。余命幾許もないと言われた時も、癌との闘いにのみ時間を使うのではなく、痛みはモルヒネで抑えてでも社会的な活動をできるだけしたい、他人のために多少は役立つことをして、あの世があるとしたら、そこへ安らかな気持ちで旅立ちたい。

直る見込みが余りない、余命幾らと言われているかも知れない癌患者に持論を展開してしまった[●]であるが、取り敢えず死地からは脱したかの如く見える者の話を、どのように感じたことであろうか。Sさんからは大いに参考になりましたと、感謝の言葉をいただいたのであるが。

埼玉医大に腫瘍内科が・・・

Sさんと弟さんには、日本でも抗がん剤をメインに治療する先生もいるし、漢方やサプリメント、気功まで取り入れる川越の帯津三恵病院のようなところもあると、帯津先生の本を渡す。先生も東大医学部の出身であるが、雑司ヶ谷の東大病院分院で修行した。本院では外科的治療をメインとし、分院は異端という人もいるが、癌センターや東大病院を頂点とするメインの治療法から見放された人にとっては救いになる。

翌日だろうか、朝のNHKニュースの癌の最新療法の報道に思わず目が行く。埼玉医大に腫瘍内科ができ、築地の癌センター出身の腫瘍内科の先生を中心に内科、外科、放射線科の先生がチームを組んで治療に当たり、成果を上げているという。実際に他の病院で治療できないと言われ、終末医療施設のホスピス入りを勧められた50代後半の肝臓癌の女性患者が、抗がん剤主体の新しい治療を受けて肝臓全体に広がった癌が殆ど消え社会復帰し、元気に農作業をしたり、旅行したりする姿が映っている。埼玉医大なら知らない訳ではない。Sさんに電話する。

埼玉医大には寮で同室の1年先輩、文学部東洋史学科卒の須田沃さんがスタッフでいる。看護学校の歴史の先生もして[●]を羨ましがらせた？が、今は広報の責任者だ。丸木理事長の弟の憲雄さんとはアルバイトサークルの東大学力増進会で一緒だった。そういうご縁もあって埼玉医大の病院や校舎の建築のニュースがある度に毛呂まで足を運んだが、鉄筋コンクリートの現場打ちの建物で、高橋カーテンウォールではお手伝いできなかった。コンサルタントとして独立して病院の設備関係のクライアントも増えたので、今度はお役に立てる。日高に新しいキャンパスができるというので、丸木理事長、北澤準備室長他にクライアントのメーカーの担当者共々、挨拶させていただいたばかりだ。



Sさんに電話すると、自身はNHKの番組を見ていないが、東大病院に入院中の弟さんは見ている、埼玉医大を紹介して欲しいという。須田先輩に電話すると、番組を見た患者さんで病院は大混雑だが、東大病院の紹介があれば時間が掛かるが診て貰えるという。Sさんの弟さんは丁度その日退院で、さっそく東大病院の紹介状を貰って、埼玉医大の近くに宿を取り翌朝診て貰いに行くと言う。一番欲しかったのはこんなアドバイスだったのだろう。再度須田先輩に電話して先生に声を掛けてもらうことに。日高の新キャンパスでは今回のチーム医療を発展させた、統合医療のセンターを作るという。新しい試みに[●]も何らかの形でお手伝いできれば、望外の幸せである。

営業に行ってお馳走に

三鷹寮同期の群馬の癌センターの澤田君にも暫く会っていない、副院長から院長に昇格したし、滞っている病院建替えの話も聞きたい。顧問先のメーカーも是非院長先生に挨拶させてくれと言うので、一緒に太田へ。久し振りに会った澤田院長は随分スリムになっている。痩せたね！癌じゃないの？癌患者が癌の名医に軽口を叩く。親父が糖尿で亡くなったし、太り過ぎたんでダイエットしてるんだ、と澤田君。カバンには弁当箱が入っている。愛妻弁当だ、最高の贅沢だ。県の建築課の次長にも来てもらい挨拶、建替えプロジェクトの現況を聞き、メーカーのPRもさせていただく。


メーカーには先に帰ってもらい、仕事を終えた澤田君の愛車で、利根川を越えた先の埼玉の鮎屋へ。大衆という店の名前と裏腹にいいネタが並ぶ。ダイエットの割にはビールのピッチが早い。生きのいいネタをつまみに[●]もジョッキ4杯飲み干すが、澤田君は5杯も飲んでいる。面目躍如だ。最後に握りを2, 3頼むが澤田君は頼まない。医者の不養生というが、ちゃんと計算しているようだ。それに引き換え[●]はこのところ気が弛んでいるようだ。ビール一杯の後は赤ワインをチビリチビリやっていたのに、少し調子がいいものだから、この頃はその場の雰囲気や焼酎や日本酒にも手が伸びる。

三楽病院の河野名誉院長には干場君！例外だねと言われてるんだけど、と話すと、ま、五分五分じゃないの、ただ個人にとってはゼロか百だからね、と澤田君。Sさんのことを話すと、東大病院も縦割りだね、外科と内科と連携取れてないんだとのこと。[●]も業者だからか、それとも商売下手で稼ぎの悪い[●]に同情したか、いいから、いいからと払いは澤田君。営業して、病気のアドバイスまで受けてご馳走になる。

アポを忘れ落ち込む

施主筋にご馳走になるような、いい加減な営業の[●]。それでもどうにかここまでやって来れたのも、バックで応援して下さる方々の力の賜物。先日も施主筋の親会社の役員の紹介で、ビル開発会社の社長さんにアポを取る。忙しい方ばかりなので、中々スケジュールの確認が取れない。一日のかなりの時間はアポ取りの電話で終わる。どうにか調整してもらい、来週水曜日の1時半にと、1週間ほど先のお時間をいただく。

ホテルも入る床面積十万平米の大きな建物だ。ようやくアポが取れたとホットすると、次の電話。話し込む。翌週の頭に今週は？と手帳を開くと一ヶ所、時刻のところに丸印がついて相手先の記載のないアポがある。これまでも時々あって、しばらく頭を捻るとどうにか思い出していたが、どうしても思い出せない。そうこうしている間に急ぎのアポが入る。週末になってあのアポはどうなったろう、もう一度お願いする積もりで電話を入れる。

以前もお世話になった方で、秘書を経て本人が直接出る。是非お時間をいただきたいと思うのですが？とお願いすると、水曜日待っていたんですよ、時間を空けて。何のことが直ぐにはわからず、は絶句。客先の記載のなかったアポはこの件だった、とようやく思い出すも後の祭り。陳謝の上、あらためて面会をお願いするも叶わず。

相手先の時間を無駄にさせ、クライアントの期待も裏切る、大失態。しばらく落ち込む。何らかの形でもう一度機会をいただければと思うのだが、それにしてもこれまでは何とか思い出し、どうにか事なきを得ていたのだが、これからはそうはいかない。アシスタントにも必ずアポを控えてもらうようにする。

ボルネオへ！・・・なぜ熱帯雨林で植樹か？

日経新聞の「私の履歴書」に岡田ジャスコ名誉会長の談話が載る。ジャヤジャスコ開店20周年記念で9月に現地植樹ツアーを行うという。70～80年代、日本の商社が熱帯雨林を伐採、合板などにして日本の建築現場で大量使用した。今も東南アジアで年に9万ヘクタール、630万人分の酸素を排出する、東京23区の面積の1.5倍の熱帯雨林が伐採される。一度熱帯雨林が皆伐されると、過酷な気候のために再生が難しいらしい。植樹は罪滅ぼしになるし、マレーシアは一度行ってみたい国だ。さっそく申し込む。

首都クアラルンプールは熱帯のジャングルを切り開いて作った、緑豊かな美しい町。高層ビルの夜景も綺麗だ。郊外の錫鉱山跡地を利用した国立公園へ、白バイ先導で日本人800人、現地千200人の大部隊がバスで向かう。広大な露天掘りの跡が幾つもの大きな池に姿を変え、朝靄の中で鳥が歌い、蝶が舞い、水牛が草を食む。こんな自然豊かな所になぜ植樹？疑問も束の間、一斉にマンゴーやパパイヤなどの果樹の苗木を植える。

二十数人で更にボルネオへ飛ぶ。コタキナバル経由でカラ行きさんの町サンダカンへ。学生時代読んだ山崎萌子のお著、「サンダカン八番娼館」の舞台だ。映画にもなった。日本人墓地に詣で、奥地のスコウの村へバスを走らせる。オランウータンやテング猿に会える。途中で舗装が途切れ、砂埃が凄いと思うと急に周りが暗くなる。スコールが襲い、道は川に変わる。周りを見渡す限りパーム椰子の広大なプランテーション。こんな緑濃い所になぜ植樹？疑問が深まる。ガイドの青年の家もパーム椰子農家だという。農業専門学校を出てから日本で1年農業研修し、日本語を覚えた。パーム椰子で月2～3万円(?)になり結構いい稼ぎだが、ガイドの方がもっと実入りが多いという。川辺のコティジに旅の荷を解く。あれが南十字星？赤道直下の川風で酔いを醒ます。意外と涼しい。

朝靄の中、漁をする船。船外機付きの小船で黄土色の大きな川を遡る。オランウータンの保護区へ。マンゴーやドリアなど、オランウータンの好きな果樹を植える。かつては建築資材のため、今はパーム椰子のプランテーションにするための熱帯雨林の伐採で、住処と餌を失い追い詰められているのだ。それで敢えて果樹を植える。環境や体にいいからと日本人が「植物物語」など、植物由来の石鹸やシャンプー、マーガリンや食用油を使うことに精を出すと、熱帯雨林が伐採されパーム椰子のプランテーションが広がる。一見同じ緑の林には違いないが、貴重な動植物が姿を消して行く。ジャスコの店頭で環境と健康を売るほど熱帯の環境が破壊され、貴重種が失われる。そのジャスコが木を植える。どこで折り合いをつけるか？ジャングルクルーズで支流に分け入る。色鮮やかな鳥や蛇、大トカゲ、蟹食い猿。テング猿は二度も姿を現し、高い樹上からの豪快なダイビングで水しぶきを上げ、歓迎してくれる。だがオランウータンは終に姿を現さない。



黄土高原植樹ツアーに参加して

以下は「緑の地球ネットワーク（略称、GEN）」主催の「黄土高原植樹ツアー」にこの夏参加した、東大の中国語クラスで1年先輩、運輸省OBの武林 郁二さんの感想です。

8月30日までの8日間、高見邦雄氏（41年東大入学、理科一類中退）主宰のNPO法人GENが主催する「黄土高原植樹ツアー」に参加しました。このツアーは、北京の西300キロの大同市の辺地にある2つの村を訪ね、小学校の園地に商品作物である杏（果肉を食べるのではなく、種子を利用するもの、杏仁豆腐の原料にもなる）の苗を植え、その小学校を経済的に支援するとともに、商品作物の栽培による収入増と中国黄土高原の緑化を地元住民に動機付けるためのものです（一石三鳥）。

ツアーは、私のこれまでの海外旅行の中で、最も学ぶところが多く、感動的でした。最初に1泊した貧村（世帯の平均年収は2万6千円）では、北京官話が充分に通じず、筆談と学校で北京官話を習っている小学5年生の通訳がないと、ご主人、奥様と意思を通じることができませんでした。また、昼食を頂いたもう一つの相対的に豊かな村でも、その家の老人は字が読めず、筆談もできませんでした。

最初の貧村で高見氏が自腹を切り、成績が良く勉強好きな女の子1人をその村で初めて中学校に通わせることになったとの話を聞き、私は涙があふれるほど感動しました。感動の余り高見氏より経済的に余裕のある私としては1人と言わず、また、過去に中学校に行けなかった子を含め、中学校に進むにふさわしい学力のある子を全員中学校に入れようと決意しました（中学校は義務教育であるのに、「義務教育を受けさせよう」とのスローガンが掲出されているのが現実です）。

このツアーは、砂漠化が進む黄土高原の緑化に参加できるのみならず、中国の辺地の生活を体験でき、また、世界遺産、雲崗の石仏や北京を観光することができ、8日間18万円と、チョーお得なツアーです。参加をお薦めします。高見氏からは、特に村田忠禧、柳原三太郎両氏（Eクラス・中国語クラス同期生）を是非参加させるよう依頼を受けました。

PS：村の小学生との交歓会で、日本のハンカチ落としと同じ遊びで負け、罰として、「草原情歌」をきれいな？北京官話で歌いましたが、子供達はこの歌を知りませんでした。ヤンコ踊りの「春季里来什 mo 花儿開」の歌も「草原情歌」も、大人も子供も知りませんでした。又、天安門以外では、毛沢東の文字も写真も一度も見ませんでした。

特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク（GEN）

〒552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24 住宅情報ビル 5F

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

E-mail gentree@vc.kcom.ne.jp URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

中国農村教育事情・・・小学校の併合（高見邦雄・GEN事務局長）

9月初めに行った陽高県大泉山村で大きな変化があり、9月の新学年から小学校が廃校になりました。この春全校生徒15人で、1つの教室、1人の先生で教えていました。1年生と3年生と5年生。「2年、4年、6年生は？」ときいたら、「来年です」との答え。最初意味がわからなかったのですが、隔年で入学します。6学年もあつたら1人の先生では教えきれない。6歳で入学できない子も出るから、5歳でも入学が認められる。6歳、7歳で入学する子も出ます。同じ学年でも年齢、体の大きさ、その他がバラバラなのはそのためです。



こういう小さな村の場合低学年しかいないのが普通です。1人の先生では高学年を教えられないためです。この村の先生はととてもできる人だから、変則的ながら6年まで受け入れていたんです。霊丘県の上北泉村と下北泉村の小学校では、1年生は両方の小学校にいます。そのあと2年生、4年生、6年生は、上北泉村。3年生、5年生は、下北泉村と分けています。両方の村が近いためこのようなことが可能です。

この9月から、大泉山村の小学校は鎮政府が所在する大白登村の小学校に吸収されました。5kmほど離れ、定期バスはないので学校に寄宿します。月曜の朝から金曜の午後まで、徒歩で通えない距離ではないが「不安全だから」とのこと。大白登村の小学校には400~500人の子がいて、設備も先生も整ってます。刺激も増え子供の視野も広がる。大泉山村の前に訪れた陽高県董庄村では、新しい校舎1棟と寄宿舎建設の準備をしていました。他の村の子を受け入れるためです。この村には上海の企業が資金提供した「希望小学校」があり、校舎も立派で先生も揃っています。小学校の併合が制度として進められている訳です。大泉山村の先生は「先生が1人だけの小さな学校は併合されません。先生が2人の学校はそのままです」といいました。別の人には「自然村の学校は廃止され、近くの行政村の学校に統合される」と答えました。小学校1年生は6歳ですから親元を離れるのはかわいそう。元からの大泉山村の先生にいうと、「その通りです。慣れない子もいます」と率直でした。

中国ではこういう方面に実績があります。都市でも両親とも働いている場合が多く、以前から全託の小中学校がありました。土日だけ両親の所に帰るんです。費用の問題もあります。学費と教科書代その他の雑費で半年80元(1元15円)、年間160元。ほかに寄宿費用が月50円で年間600元。主食の材料は自分で運ぶが、子供の多い家庭には負担です。大泉山村は貧しい農村ですけど、教育にとっても熱心で、今はどの子も学校に寄宿しています。でも就学がこれまで以上に困難になる村、困難になる子もいます。渾源県の通りがかりの小さな村で数人の子に「学習好不好?」「勉強はできるか?」ときくと、いっせいに「不好!」「(できない!)」と答えました。「どうして?」ときくと「先生が教えてくれない」とのこと。「マージャンばかりやってる」というんです。特殊な例でしょうけど。この通信でもよくとりあげる苑西庄村の先生なんて、本当にいい人です。村の人で1人1人の生活環境を知りきっていて、自分の子同様に大切にしています。小学校を卒業するのも大変な村ですけど子供は素直で潑刺としている。こういうことは日本でも中国でも都市の環境に求めることはできないんです。8月のツアーに参加した武林さんはすっかり感動して、奨学制度を自分で作ってくれたほどです。

上海より愛をこめて・・・娘の上海日記

時々海外に付き合ってくれる娘も、大学院受験失敗後のフリーター生活の足を洗い、8月から上海に語学留学。一抹の寂しさを拭えませんが、メールをやり取り。国際化、情報化の時代だとつくづく感じます。娘のメールの一部転載します。

こちらに来て、大学の友達、上海で会社を営んでいる人や駐在員として働いている人など、様々な人から色々な話を聞くことができます。1年勉強を終えたら上海で働くか、それとも帰国して大学院に行くか迷ってます。日本に帰って働く選択肢は余り考えていません。こちらに来て中国への関心も高まり、せっかく中国語を勉強しているのだから、3年くらい上海で働きながら語学を完璧なものにしたいとも思います。1年勉強して帰っても直ぐ忘れるそうです。仕事に関しては、上海は人手が足りていない状況なのでいくらでもあります。

日本語と英語と中国語がある程度話せば全く問題ありません。中国で就労ビザを取ってもいいし、香港に行けば3時間くらいで1年のビザが下ります。もう少し猶予があるので考えてみます。日本にいと何でも手に入るし、会いたい友達も沢山いるけれど、上海にも国籍を問わず本当に色々な人達が生きていて、とても刺激になります。日本にはいつだって帰るので、もっと上海で色々な国の人と交流して視野も広げたいし、日本語以外の言語で生活できるようになりたい。1年で帰るか何年で帰るかはまだわからないけれど、あたしのことは心配しないで。

偽造テレカですが、違法でも使わなければとんでもなくお金がかかるし、定価で買ったら皆に真的神経病(チェンダシェンジンピン、本物の気狂い)だと思われるので勘弁してください。ここは中国、お父さんは旅行でしか来てないからそう言えるのです。逆にそんな発言が新鮮ですけど。こちらでは間違いなく警察官も偽造テレカ使ってます。バスが毎日人を跳ねて殺しているよう街なんです。ほんとに死体が転がってるの見るし。こないだも松山大学の中国語学科の生徒がうちの大学(華東師範大学)に語学の研修に来て、引率の教授が大学の正門を出てすぐバスに跳ねられ亡くなりました。法律なんてあって無いようなもの。日本の感覚では生きて行けません。

皆、毎日ご飯を食べて寝ることができれば良いと思って、やっつけで仕事してます。警察官も含めてね。無免許でバイクを運転したって20元払えばことが済みます。私はもちろん一般道は運転してないけど。交通事情が悪すぎる。一般の人達は共産党の支配に全く興味はないし、日本と違って究極の個人主義。人のことなんてどうでも良いし、良し悪しの判断はつけかねるけど、本当に色々な意味で適当に暮らしています。それが中国。全ての人達が黄土高原に暮らす人々のように苦しんでる訳ではないし、貧しい内陸部に興味を持ってる中国人はほとんどいません。そんなことも問題なんですけど・・・。

Eクラス奨学基金を！


かって赤信号の赤は革命の赤だから渡れ！と言ったとか、言わぬとか。国家の転覆を唱えた[●]が異国の娘に偽造テレカを使うなど論し、法の行われない国で法を守れば気遣いと言われると、娘は反論する。独裁の下での経済発展と民主主義のない市場経済は富の再分配を知らず、貧富の差を極端にし、モラルは荒廃する。いずれ大多数の貧者は一握りの富者と独裁に、それと結ぶ外資に怒りの矛先を向けないか？

Eクラス。あの時代に第二外国語に中国語を選んだ、駒場の少数派。朝日新聞の船橋洋一国際記者(S39年入学) 大橋和歌山市長(S40年) 伊藤鹿児島県知事(S42年)もEクラスだ。自治委員長も輩出し、学生運動も盛んで、中退した者も多い。

今夏GENの黄土高原植樹ツアーに参加した武林氏もEクラスで1年先輩だ。学生運動を熱心にやった訳でもない彼が、大同の農村の貧しい子供の勉強のために奨学金を出すという。キャリア官僚OBほど恵まれてはいないが、月給23万円のNPOの専従の高見君よりは実入りがいい[●]。ツアー参加のきっかけが[●]通信とあれば、協力しない訳に行かない。いっそEクラス有志で基金をつくったらどうか？そして中国で同窓会をする。若い時に、中国語を通して中国と何らかの関わりを持った者として、今、内陸中国の意欲ある子供達を手助けすることは、意義あることではないか！

「つじ恵君と21世紀日本の構想を語る会」



東大三鷹寮で共に同じ釜の飯を食った国会議員は現在3名。森元恒雄（S41年入寮）、舛添要一両自民党参議院議員、辻恵民主党衆議院議員（共にS42年入寮）。それぞれよく頑張っているが、森元君は自治省OBとして、舛添君は抜群の知名度で確たる其盤があり、が出る幕ではない。辻君は市井の弁護士出身、野党の代議士で知名度も低い。一度民主党に政権を取らせ、政権交代も可能にしたい。二大政党制ってそんなにいいの？という議論はとりあえず置いて、辻君への支援を呼び掛けたい。

辻君は昨年11月の総選挙で大阪3区から立候補、皆様の大きなご支援で79,539票もの御支持を頂き、初挑戦で衆議院に当選。弁護士として高い実績評価の備わった辻君は、高度な専門的実務能力を備えた新たなタイプの政治家の出現として注目を集め、初めての通常国会で驚異的な40回の質疑・発言回数を実現、倫選特委員会の理事への選任もその明らかな証左。が、国会は論戦の場ではなく、数の力で法案を強行採決する国民不在の場、政権交代を実現しなければ日本の未来は絶望的な危機的状況とのこと。

そこで、衆議院議員 辻恵君が、政権交代の中心的役割を担う人材として成長、飛躍することを期して、「辻恵君と21世紀日本の構想を語る会」を開催致します。皆様の期待と信頼に応えるべく、同君もたゆまず研鑽に励んでおりますので、多くの方々から激励を頂戴し、懇親と交流を深める場としていただければ幸いです。

日時：2004年11月16日（火）17：30開場

18：00講演会 講師：三田誠広氏（芥川賞作家）18：30懇親会

場所：ホテルニューオータニ 講演会「翔の間」 懇親会「麗の間」

東京都千代田区紀尾井町4-1 03-3265-1111

会費：20,000円（政治資金規正法第8条の2に規定する政治資金パーティです）

連絡先：「辻恵君と21世紀日本の構想を語る会」事務局

衆議院第二議員会館228号室 03-3508-7028 Fax 03-3508-3828

前田和男著「三か月で代議士になれる！」出版記念会

朝日新聞のポリチカ日本や毎日新聞の書評などでご存知の方も多いかと思いますが、団塊ネット前田世話人が昨年の総選挙の大阪3区での経験を「選挙参謀-三か月で代議士になれる」(太田出版・1680円)として出版しました。(別紙参照)。

このまま死んでいいのか？と出馬を決意の、銀座に事務所を構える腕利きの辻恵弁護士55歳。年金生活に遁走せず社会変革に今こそ！と友人に呼び掛ける“一人電通”前田、57歳。団塊世代の夢よもう一度！の奮戦記は、あなたを勇気づけ、大いに参考にもなるでしょう。

書評を書いて下さった朝日新聞の早野編集委員、藤森照信東大教授、本書登場の団塊世代の国会議員の方々にもお話ししていただく予定です。奮ってご参加下さい。



日時 11月18日(木) pm6:00受付 6:30開始
場所 ちよだプラットフォームスクエア 03-3233-1511
千代田区神田錦町3-21会費 5千円(軽食・酒代・本代込み)
連絡・申し込みは団塊政策研究ネットワーク代表世話人の干場事務所まで。

東大三鷹寮S41・42・43年入寮の皆さん!

三鷹寮で青春を共に過ごした皆さん! 今年も
合同の同期会を行います(往復葉書が行っている
と思いますが、出欠を問わず返信を!)

団塊世代の大量定年退職が07年問題として論
じられ、リストラや病気、年金も気になるこの頃。
文の弁護士から理の医師まで、総合大学の寮
故に、三鷹寮は人材豊富。ソリュ-ションには事
欠きません。あなたも利害関係のない所で培われ
た素敵なネットワ-クに加わり、一献傾け、来し
方、行く末を語り情報交換、秋の夜長を楽しく過
ごしませんか?

日時 11月19日(金) pm6:30~
場所 ホテル銀座ラフィナ-ト(右図参照)
TEL03-3561-0777 <http://WWW.raffinato.jp>
東京都中央区銀座1-26-2

会費 8千円(3年次分名簿作成、通信費込)
呼掛人 勝部日出男(43年) 03-3561-8210
連絡先 宮脇良秋(42年) 03-3448-7031
干場革治(41年) 03-5689-8182
E-Mail:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp



世界の鉄道、日本の鉄道・・・三鷹クラブ第57回定例懇談会のご案内

我々と菅君が三鷹寮へ入寮したのは1960年(昭和35年)。樺美智子さんが国会の南
通用門前で亡くなる直前、安保反対の嵐が高まる中で当然皆が学校よりデモに出かける毎
日だった。当時の岸首相は、「声なき声」と無言の大衆をあてにして居直り、丸山真男先生
は「行動しないということは、行動しないという行動をとっている」と我々の逡巡に決断
を迫った。結果世の中は何も変わらず、我々の周辺には『青春の挫折』というか、虚脱感
だけが残った。そして寮生の多くが夜を徹した麻雀や女子大寮へのストームなど遊興(?)
に明け暮れるのと対称的に、決して付和雷同せず、一人大きな地声で熱っぽく日本のあり
方を語ったり、黙々とその文化的素養を培っていた男が今回のスピーカーの菅 建彦君だ。
本人の話では1回だけストームに参加、某警察署でさんざん油を絞られたことがある由。

国鉄に入社した彼は、分割・民営化のもうひとつの嵐を体験する。ロンドン時代に磨き
をかけた文化的素養と、持前のあくなき探求心が一冊の本として開花したのは、そんな嵐
の真中のことだ。『英雄時代の鉄道技師たち』。この本が87年の土木学会賞を受賞する。



かつて秘書として仕えた元国鉄総裁 藤井松太郎氏は、その本に次のような序文を寄せている。「本書を書かれた菅 建彦君は法学部の出身で、工学部のいわゆる技術屋ではない。本職の技術屋が研究を怠っている近代技術の源流について、技術屋にあらざる菅君が深い造詣を持たれることは技術屋の怠慢に対する叱責とも受け取れる。(中略)菅君のご努力に対し、深い敬意を表する。」

私も自動車という異なった分野の交通関係者の端くれとして、内外でよく彼の名前を耳にした。とりわけ彼がパリに住み、私がロンドンにいた90年代の初頭、鉄道の発祥地イギリスで彼の名前を聞くのは友人として誇らしくもあった。時にパリ・ロンドンの2都間を往来して、直接彼に会うことは実に楽しい出来事であった。その彼が、いま由緒ある交通博物館の館長を勤めている。これほど彼に相応しいポストは他にないのではないか。彼の鉄道の話に期待したい。(箕浦雅生・トヨタツーリストインターナショナル社長 記)

日 時： 平成16年12月1日(水) 18時30分～21時

会 場： 学士会館本館320号室(千代田区神田錦町3-28 TEL:03-3292-5931)

講 師： 菅 建彦 交通文化振興財団理事長兼交通博物館館長(昭和35年入寮)

会 費： 5,000円(会場費、夕食・ビール代、講師料、通信費等込み)

定 員： 100名(先着順、定員を超えない限り特に連絡はいたしません)

二次会を予定しています(約3,000円、近くの中国料理SANKOUEEN)

申込先： 平賀俊行 FAX 03-5256-0458 TEL 03-5256-0455 (株)国際研修サービス

干場革治 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182 (有)ティエネットワーク

e-mail : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

最後に・・・秋田名物は如何？

前回の白神の観光案内に続き、今回は秋田名物八森ハタハタとキリタンポの案内を同封させていただきます。いずれも秋田の冬の名物です。愚妻は新潟出身の現役の栄養士、料理のプロですが、キリタンポにはまっています。新潟名物ノッペイより数段美味しいといえます。近くの公団滝山団地にイトーヨーカ堂があるのですが、売れ筋しか置かないヨーカ堂にはキリタンポがないので行かず、キリタンポを置いている遠くの西友で買物をします。又、ハタハタも村上の三面川の鮭よりも美味しいそうです？！

これでは柏崎出身の埼玉医大の須田先輩に裏切り者！と怒られそうですが、実家が地震の被害を受けなくて良かったですね。実は妻も小千谷の五辺という在の一人娘なので心配しましたが、高齢の両親は施設で無事。叔父さんが創業した越後製菓(高橋英樹がテレビで宣伝している)の近くの工場は壊れたようですが、古い家も軒先の瓦が少し落ちるくらいで済んだようです。一度家を見がてら両親の見舞いにと思っているのですが、交通が回復せず行けないでいます。

それにしても今年は、台風の風水害、地震と自然災害が多く、ガス、水道、電気、交通、通信の現代生活に必須のインフラがこんなに脆い、そして住民もそれらが寸断されると、途端に生活できなくなるというのも困りものです。コストはかかるかもしれませんが、ライフラインのツーウェイ化が必要なのかも知れませんが、生活のハイテク化が進んでもローテクも捨てないとか。このままでは東京を大地震が襲ったら、考えるのも恐ろしい、悲惨な結果をもたらさそうです。

再見！

